

Exhibition

Boutique! —ファッションって何？アートと考える、その姿。

会期 2014年12月17日(水)～29日(月) 11:00 - 20:00

会場 スパイラルガーデン (スパイラル 1F)



左上：『Body Beautiful (Remix)』
Tero Puha & Teemu Muurimäki
右上：『15%』
Salla Salin & Timo Rissanen
左下：『じゅていむ 喉から flower が出るほど・・・』
松井えり菜 (参考作品)
Photo: Keizo Kioku
Courtesy of YAMAMOTO GENDAI
右下：『Cinderella, 2014』
館鼻則孝

フィンランド発、アートとファッションの融合展

『Boutique! —ファッションって何？アートと考える、その姿。』

松井えり菜&館鼻則孝 / matohu&ナガオカケンメイ

日本バージョンとして話題のクリエイターのコラボレーションが実現！

【出展作家】

From Finland : Tero Puha & Teemu Muurimäki / Salla Salin & Timo Rissanen / Heidi Lunabba & Nutty Tarts
/ Katja Tukiainen & Samu-Jussi Koski / Paola Suhonen & Mikko Ijäs / Minna Parikka & Jani Leinonen

From Japan : 松井えり菜 & 館鼻則孝 / matohu & ナガオカケンメイ

スパイラルは、2012年にフィンランドの Amos Anderson Art Museum で開催したファッションとアートの融合をテーマとした展覧会「Boutique」展をベースとし、日本版に新たに発展させた「Boutique! —ファッションって何？アートと考える、その姿。」を2014年12月17日(水)～29日(月)に開催します。

■取材に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

スパイラル/株式会社ワコールアートセンター 広報部 瀧本恵理

〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23 TEL 03-3498-5605 FAX 03-3498-7848

E-mail press@spiral.co.jp <http://www.spiral.co.jp/>

spiral.

ランウェイを颯爽と歩き、瞬く無数のフラッシュを浴びるモデル。時代の先端を象る、華やかな才能の数々。そんな煌びやかなシーンを想起させるファッションは、身につけられる芸術品として、また自己表現の手段として、人々の憧れと欲望を刺激し、豊かなクリエイションを多数生み出してきました。一方、大量生産・大量消費から生じる環境問題や、過剰な「美」のステレオタイプがもたらす影響など、その課題も指摘されています。本展では、ファッションデザイナーとアーティストとがペアを組み、ファッションが持つ圧倒的な魅力と抱える問題、そして現代美術が持つ問題提起と社会とのコミットメント性、双方に焦点を当て、ファッションデザインというフィルターを通して社会問題と対面し、そして、流行という概念を越えファッションを問題提起の素材として表現するアートワークを展示します。機能と装飾、表現とルール、価値と価格など、相反するよう共存している要素を取り出し、工場・試着室・広告発表会といったシーンに分けて空間を構成していきます。フィンランドと日本、ふたつの国のクリエイター達が創り出すユニークな世界をお楽しみください。この機会にぜひご取材、ご掲載を検討くださいますようお願いいたします。

本展の見どころ

◆ファッションから考える社会問題

本展では、服そのものを展示するのではなく、ファッションとそれを取り巻く社会のあり方について思考したアート作品を展示します。グローバル経済における大量消費や持続可能性、ジェンダー、審美性、階級差などについての問題を提起します。

◆コラボレーション

ファッションデザイナーとアーティスト、フィンランドと日本。ファッションの中心、中央ヨーロッパから離れた二国がそれぞれ出会い、コミュニケーションをとることで浮かび上がる共通の問題意識や違い。問題設定から、思考、アウトプットへという一連のプロセスを共有し、互いに新たな可能性を見出します。

◆次世代を担う才能

フレッシュな感性で事象を捉える 30 代のデザイナー、アーティストを中心に起用。未来に向けてメッセージを放ちます。

◆絵画、彫刻、インスタレーション、パフォーマンスなどの多彩な表現

来場者が五感を使って体験し、気軽に楽しみながらも深く考えをめぐらせることができるように、体感型のインスタレーションやパフォーマンスを取り入れます。

◆キギのビジュアルデザイン

D-BROS を始めとし、企業やショップ、ブランドなど様々な分野でアートディレクションを行ない、注目を集める植原亮輔と渡邊良重によるデザインユニット、キギが「Boutique!」展のビジュアルイメージを作ります。また、本展と連動したスパイラルエントランスのウインターデコレーションも手がけます。

開催概要

Boutique! —ファッションって何？アートと考える、その姿。

会期 2014 年 12 月 17 日（水）～29 日（月） 会期中無休 11:00～20:00

会場 スパイラルガーデン（スパイラル 1F）

〒107-0062 東京都港区南青山 5-6-23 東京メトロ銀座線・千代田線・半蔵門線「表参道」駅 B1、B3 出口すぐ

入場料 無料

お問い合わせ先 TEL 03-3498-1171（スパイラル代表）

主催 株式会社ワコールアートセンター

企画制作 スパイラル

企画協力 Annamari Vänskä

協力 Amos Anderson Art Museum

後援 フィンランド大使館、フィンランドセンター

グラフィックデザイン キギ

出展作品紹介（一部）／フィンランド

Tero Puha & Teemu Muurimäki “Body Beautiful (Remix)”

アーティストのテロ・プハとファッションデザイナーのティーム・ムーリマーキは、身体、ジェンダー、セクシュアリティ、理想の美といったファッションが孕む重要な課題に取り組みます。ファッションは(身体的に)理想的な性差、外見上の「空虚な約束事」を作り上げていますが、これらの理想像に対し、広告の表現を用い批判的なスタンスを表現します。

彼らは「Body Beautiful (Remix)」という名の高級香水を開発。如何に理想的な美が作り出され、どのようにその基準が作り直されていくのかを、問いかけます。またどのようなビジュアルイメージを用いれば魅力的な商品に仕立てあげられるか、ブランディングについても考察した作品です。



『Body Beautiful (Remix)』 Photo:Tero Puha

Salla Salin & Timo Rissanen “15%”

服飾デザイナーのティモ・リーサネンとアーティストのサラ・サリーンは、最も喫緊の課題である大量消費文化にスポットを当てます。季節毎に変わる急速なトレンドに依存するファッションは、まるで使い捨ての日用品のように消費されています。

彼らは、Tシャツを実際に縫って販売するパフォーマンスをおさめた映像を組み合わせたインスタレーション作品「15%」(一般的な洋服は、全材料の85%のみを使用し、残りの15%は廃棄されているという。)を展開します。それを見た消費者は、自分たちの消費に対する責任に気がつくでしょう。持続可能性の先駆者であるファッションをどう考えるべきか。衣服のイデオロギーとラグジュアリーはどのように関係しているのか。人と環境を使い果たさないような洋服の生産工程を構築するために、どんなことを考えるべきか。グローバル市場経済における価格の正当性について疑問を投げかけます。



『15%』

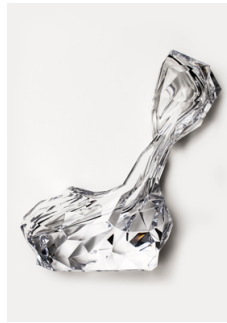
Katja Tukiainen & Samu-Jussi Koski “Girl Evacuees”

元マリメッコのデザイナー、サム=ユッシ・コスキと画家でイラストレーターのカティア・トゥキアイネンの作品は“Girl Evacuees(少女避難民)”。本作は、カレリアの避難民(第一次~二次世界大戦の際にフィンランドのカレリア地方がロシアに占領され、避難した人々)に焦点を当てています。カレリアの人々は、故郷に危機が迫ったとき、わずかな大切な物を手にし、一番上等な服に身を包み、特に既婚女性はドレスを着てその地を去ったと言います。本作でサムがデザインしたドレスは、彼の祖母からの実際の話と古い写真に写ったカレリアの女性達が着ていたドレスに基づき、そこに新たな解釈を加えて現代的にアレンジしたものです。そしてこのドレスを着るマネキンは、イラストレーターとして活躍するカティアが描き出すキャラクターで、彼女らが住む“Shangri Laa Laa Land”という架空の国から Greed (貪欲) と Intolerance (偏見) によって追い出されてしまった女の子たちです。避難民となった彼女たちですが、美しいドレスを身にまとった姿を見ると勇氣、自由、歓喜等を彼女らからは奪い取れないという事を想起させます。

『Girl Evacuees』
photo: Kari Siltala

出展作品紹介／日本

松井えり菜 & 館鼻則孝



左：『じゅていむ 喉から flower が出るほど・・・』
松井えり菜（参考作品）
Photo:Keizo Kioku
Courtesy of YAMAMOTO GENDAI
右：『Cinderella, 2014』
館鼻則孝

自らの顔をモチーフとした作品を画面いっぱいに描く若手画家の松井えり菜と、レディーガガが愛用する靴のデザイナーとして注目を集める館鼻則孝。大人になるに従って服装で中身を判断されるようになってきたと語る松井。彼女にとって、また多くの女性にとって「服」とは自分自身を違うキャラクターへと変身/演出できるアイテムでもあります。今回は服の変化がそのまま階級変化を表現している童話「シンデレラ」をモチーフに、身につけるものが演出する力、そして本当の幸福とは何かを考えさせるアートワークを発表します。

松井えり菜

1984 年生まれ。美術家。東京藝術大学大学院美術研究科修了。京都精華大学非常勤講師。2004 年に自画像『えびちり大好き』で GEISAI#6 の金賞を受賞。平成 24 年度文化庁新進芸術家海外留学制度研修員。

館鼻則孝

1985 年、東京の中心にある歓楽街で生業する家系に生まれる。東京藝術大学にて染織を専攻し友禅染を用いた着物や下駄の制作。全ての行程をデザイナー自らの手仕事により完成される靴のコレクションがファッションの世界に留まらずアートの世界でも評価されている。2010 年、自身のファッションブランド NORITAKA TATEHANA を設立。

matohu & ナガオカケンメイ

「日本の美意識」を現代に活かす服づくりに取り組む気鋭のファッションブランドまとふと、ロングライフデザインのセレクトストア D&DEPARTMENT などを手掛けるナガオカケンメイ。彼らの活動は、ジャンルは異なりますが、表面的な華美や贅沢ではなく、物の本質を見極め、時代に流されずに大切なものを現代に綴っていくとする確固たる姿勢が通底しています。今回、彼らは「(時代の流れの)ふきよせ」をテーマに、忘れ去られている物に新しい価値を当てる作品を展開します。日本独自の文化に目を向けると共に、大量に溢れる服や物との関係性を改めて考えさせる作品です。

matohu

堀畑裕之と関口真希子によって 2005 年に設立されたブランド。日本の美意識が通底する新しい服の創造をコンセプトに東京コレクションやスパイラルガーデン、金沢 21 世紀美術館での展覧会などで作品を発表している。2009 年、毎日ファッション大賞新人賞・資生堂奨励賞を受賞。

ナガオカケンメイ

1965 年北海道生まれ。日本デザインセンター・原デザイン研究室を経て、ドローイングアンドマニュアルを設立。2000 年、これまでのデザインワークの集大成としてデザイナーが考える消費の場を追求すべく、東京・世田谷にデザインとリサイクルを融合した新事業『D&DEPARTMENT PROJECT』を開始。2005 年、隔月刊誌『d long life design』を創刊。2009 年、日本をデザインの視点で案内するガイドブック『d design travel』を発刊。